

眼科検査のあれこれ

～眼科コラム～

聖隷沼津病院 眼科検査室

眼底カメラ撮影について

眼の病気は進行するまで自覚症状がないことも多く、早期発見のためには、眼底検査が大切になります。

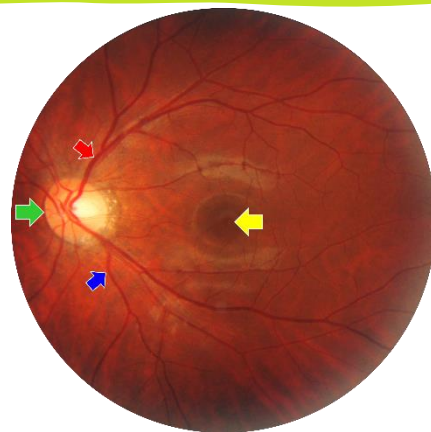
眼底検査には、眼科医が直接眼底を観察するものと眼底カメラという器械を使って、眼底の写真を撮影する方法があります。今回は眼底カメラ撮影についてお話します。

眼底とは？

眼底とは、眼球の奥(網膜、視神経、血管)のことで、眼底カメラ撮影では、眼球の奥(網膜、視神経、血管)の撮影を行い、異常がないかを確認します。

眼の中心には、網膜の中でもっとも敏感で感度が高い「黄斑部(黄矢印)」があり、その傍には、網膜が受け取った情報を脳に伝える視神経繊維の束の出口である「視神経乳頭(緑矢印)」があります。

さらに眼底では身体の中で唯一血管を直接見ることができます。(赤矢印が「眼動脈」、青矢印が「眼静脈」)



眼底検査でなにがわかるの？

眼底カメラ撮影では、眼球の奥の状態を撮影することで、「黄斑変性」「緑内障」「糖尿病網膜症」「網膜血管の動脈硬化・閉塞」などを見つけることができます。

黄斑変性ではもっとも感度が高い黄斑部に変性が起きるため、歪む・見ようとすると場所が見えない・視野が欠けているといった自覚症状が現れます。

緑内障や糖尿病網膜症は、初期には自覚症状が乏しく、見づらさを感じた頃にはかなり進行をしています。緑内障では視野に障害が現れ、失った視野を取り戻すことはできません。糖尿病網膜症では、視力低下が起き、進行した場合には、硝子体注射や硝子体手術、網膜光凝固など治療が必要になり、治療が遅れると視力の回復も難しくなります。

高血圧や高脂血症は動脈硬化や血管の閉塞が起きやすく、血管の閉塞が起こると閉塞した場所から出血や網膜がむくみを生じ、視力低下が起きます。

眼の病気の早期発見には眼底検査が大切

職場などの定期健康診断で、血圧や血糖値を確認することはできますが、定期健診のなかで、法律で決められた眼の検査は視力検査だけとなっているため、視力検査で特に指摘のなかった方や、自覚的に見え方に異常がない方は眼科を受診するタイミングがなかなか訪れません。

しかし、眼の病気の中には、初期などは自覚が乏しいものもあり、徐々に症状が現れる場合や突然症状が現れる場合があります。

眼底カメラは隠れた眼の病気を見つける有効な手段とされています。眼の病気の早期発見の為に、年にも年に1度は眼底検査を受けることをおすすめします。